

綾瀬市立綾北小学校

研究テーマ：生き生きと学び合う子～資質・能力の育成を目指した生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の作成～

1、実践の目的

グローバル化と技術進歩が進み、生活様式や仕事の仕方の変化も激しい。そのような時代の中で様々な問題解決をするためには、『生きて働く「知識、技能」の習得』『未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成』『学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養』の3つの柱が大切になる。そこで、6年間で身に付けさせたい資質・能力を共有し、生活科と総合的な学習の時間を軸として研究を進めてきた。また、国際色豊かな本校では、書くこと・読むこと・様々な生活体験などに大きな差がある。全国学力・学習状況調査からも、自分の考えを持ち、表現することや自ら課題に取り組むことに苦手意識を持っている児童が多い状況にある。そこで、身の回りのもの・ことに主体的に関わり、友達・教師と探究する楽しさを味わうことを通して、学習意欲の向上と学ぶことの意義や楽しさを感じ取らせたい。

2、実践の内容

生活科・総合的な学習の時間を核にして、どのような資質・能力をもった6年生に育てほしいかを考え、教員間で共有した。この「目指す6年生像」を意識して単元の指導内容を精査し、探究課題の設定を行った。次に、「あやせ授業モデル」「あやせノートモデル」を活用し、授業スタイルの共通化を図った。校内研究・日々の授業では、「振り返り」の時間を設定することを学校全体で決め、

校内研究の学習指導案にも、「振り返り」の時間を設定した。また、綾瀬市教育委員会指導主事の方々に、授業を参観していただき、指導・助言をいただいた。その中でも、めあての提示と振り返りの重要性を指導していただいた。

校内研究授業では、低・中・高学年で1本ずつ研究授業を行った。研究授業後には、講師から、「教師の願いだけで授業を行わないこと」「子どもが何に疑問を持ち、どのように思いながら活動しているか」考えていくことが生き生きと学ぶ子どもの姿につながっていくと指導していただいた。また、付箋を用いた調査内容の分析の仕方を学んだり、2つの学年の学習する内容を協議会で比べたりすることも行った。学年が上がるにつれて児童の学び方を高めていくイメージを共有した。



3年生は先生と一緒に考える



4年生は自分たちでまとめる

「総合的な学習の時間」
調査内容の分析の仕方

毎月3・4週目は授業公開ウィークとして生活科・総合的な学習の時間を参観しあった。学期末には教務総括と連携して、カリキュラム・マネジメント会議や生活科・総合的な学習の時間授業報告会を開催した。自分の学年だけでなく、どの学年で、どのような学習を行っているか把握できるようにした。

学びの足跡が分かる掲示物を各学年掲示した。子どもたちが何を学んできたかいつでも振り返りができるようにするだけでなく、他学年の取り組みも一目で分かるようにした。



学年の壁掲示で振り返り

3、実践の成果

生活科・総合的な学習の時間の大きなテーマを「地域」に据えたことで、重点を置いて指導することが明確になった。また、単元指導

計画作成を通して、子どもたちが興味を持てるような小単元名や、分かりやすい授業のねらいを考えたことで、子どもたちの学ぶ意欲が高まった。身近な学習材を自分事として捉えて発言することが増えたと感じる。また、「子どもたちの思考に合わせた柔軟な対応ができるようになった」「年間を見通した授業づくりの視点が持てた」など、教師として成長を感じることも大きな成果だと思われる。

4、今後の展開

児童の言語活動の拡大をはかるために、思考ツールやICTを効果的に活用できるようにしていきたい。また、地域人材と関わることで児童がより主体的に自分事として考えられるように指導計画・指導内容を見直していく必要があると感じている。

今回、「あやせ授業モデル」と「あやせノートモデル」の活用を図ってみたが、めあてと振り返りの整合性がとれているか、評価は適切か、家庭学習の在り方はどうするか、基礎学力を高めるにはどのような手立てが有効かなど、課題は多い。児童の興味・関心をもとに、一人ひとりの個性を大切にしながら多様で質の高い学びの実現を目指し、教科等横断的な視点に立った授業づくりが実現できるように、研究を進めていきたいと考えている。

